

阿弥陀こども園 4月20日(木) 《お話のポケット》

うららかな春から初夏の気配を感じる季節になり、園舎からは子ども達の元気な歌声が聞こえてきます。

4月は阿弥陀こども園で月に1度行われている《お話のポケット》に参加させてもらいました。《お話のポケット》とは、先生が園に来られ2～5歳児さんを対象に絵本の読み聞かせやわらべうた、お話をしてくれる行事です。



まず、うさぎ組(2歳児)さんの教室に入って驚いたのが、まだまだ1人遊びが大好きな子ども達がきちんと2列に並んで静かに待っていたことです。何が始まるんだろう?とみんな目を輝かせていました。レンゲのお花の指人形で歌が始まると「ああ～ああ!」と声を出し一緒になって歌ったり、くまのパペット人形が登場すると「くまたーん!」みてみて!と私達にも指差し教えてくれました。

絵本の『くだもの』では自分の大好きな果物や知っている果物が出てくると「さくらんぼー」「バナナ」と嬉しそうな声が聞こえてきました。次は何が出てくるんだろう?というページをめくる瞬間のドキドキが子ども達の興味をひいていたように思います。

ペットボトルの蓋でうまく立つようにした手足がヒモのタヌキさんとキツネさんが、バイバイの時に「カバンの中にすいこまていくよ～」と先生がいうと、あちこちから「きゃ～」と悲鳴が聞こえてきました。

体を動かすのが大好きな子ども達はわらべうたに合わせてお舟をギコンバッタン前後に体を動かしながら笑顔でゆれていました。

最後にくまさんにわあーと駆け寄ってさよならのハイタッチ「ありがとう、また来てね～」みんなで先生にお礼を言ってお別れしました。

続いてすずらん組（4歳児）さんへ。

先生の姿を見つけると待ってましたとばかりに「来たよー」とみんなにお知らせしてくれる男の子の声が響きました。「なんやろう楽しみ」先生がカバンをごそごそすると「なんか黒いの出てきたあ」「ろうそく火つけるのかな?!」もうみんな何が始まるのかとワクワクそわそわ。ろうそくに火をともしお話の始まりです。

1冊目の絵本『ちいさなねこ』は広い世界へどんどん興味を持って出ていく子ねことその母親ねこを描いた物語です。先生の優しい声とゆったりした語り口調に引き込まれ、みんな真剣に聞き入っていました。

2冊目はロシアの昔話『おおきなかぶ』『おばあちゃんのおうちにあるー』『お医者さん行ったときにあった!』みんな親しみのある絵本だったようです。なかなか抜けないカブに「なんでやろう?」の疑問の声が（笑）列車のように連なってカブを引っ張る絵を見て「うんどこしょ、どっこいしょ」一緒に掛け声をかけて応援しました。

1冊読み終わるごとに「ありがとうございました」と子ども達から自発的にお礼を言っていたことに感心しました。

5歳児は、「お話のポケット」の経験があるので、待っている姿からも子ども達が楽しみにしている様子がうかがえました。



先生が「ろうそくに火がともると、お話の世界に入ります」と言われ、ろうそくに火をともしられると、子ども達はすーっとお話の世界にひきこまれていきました。

まず、『さくら』という詩をきかせてくれました。阿弥陀こども園には、桜の木がたくさんあり、今はほとんど散ってしまっているけれど前回阿弥陀こども園にお邪魔した時、5歳児は、散っていく桜の花びらを追いかけたり、拾ったりして遊んでいました。そんな親しみのある桜の詩だけに心にすんと落ちていったように思います。「これは、まどみちおさんの詩ですよ」と先生は教えてくれました。「知っているかな?知らないかな?」とだけ言われ、先生は多くは語られませんでした。誰がつくったかよりも、詩の言葉のひびきを感じとれたらいいのかもしれない。

次にお話『世界でいちばんきれいな声』を聞きました。絵本ではありません。先生は、子ども達の顔を見ながら語っていかれました。5歳児ともなると、絵がなくてもその世界が想像でき、それぞれの心の中にそれぞれの絵がえがかれているのだなと感じました。

次は『ひとまねこぎるときいろいろぼうし』『あっ、おさるのジョージや』という

声があちこちからしました。テレビでおなじみの“おさるのジョージ”だけれど、先生は「そうよ」とは言われず絵本を読み始めました。読んでいくとやっぱりジョージだと分かるけれど、子ども達はもう夢中で聞いていました。アニメのようにジョージが動かなくても子供たちの心の中でジョージは生き生きと動いていたと思います。

最後に、先生がお豆のペープサートを動かしながらわらべうたを歌ってくれました。

お話の世界の終りは、ともしていたろうそくの火を消します。これは、その月のお誕生日の子ども達の役割です。今日は4月生まれのお友達でした。きっとそれぞれが、自分の誕生月にこの役割をすることをとても楽しみにしていることだと思います。3人がふっと息をふきかけ、ろうそくの火が消え、楽しいお話の時間が終わりました。

お話し会の後、先生同士がへびをどんなふうにつつまうまく動くか、いかに本物のように見えるのか相談していらっしやいました。年齢ごとにどの絵本やお話が合うかなど試行錯誤し、季節に応じたわらべうたを取り入れ、何度も何度も暗記するまで練習されるそうです。ただ読み聞かせるのではなく、子ども達と絵本の世界を共有することが大事なのだと感じました。

本には心の成長や想像力を刺激する効果があります。毎日10分でも親子で一緒に絵本を読む時間がつくれるといいですね。

